



医療連携課だより

一之瀬脳神経外科病院は10月で創立31周年を迎えました！

平素より当院の運営に、ご支援を賜り感謝申し上げます。

この度、一之瀬脳神経外科病院は開院31周年を迎えることができました。

開院当初は「断らない救急」・「くも膜下出血をはじめとする脳卒中の撲滅」を掲げ、脳卒中救急や手術に特化した単科病院であった当院も、今では神経内科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科・形成外科が加わりました。

また、脳卒中急性期以降も当院で連続して対応できる回復期リハビリテーション病棟ができ、さらにその先の生活期を支える通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・訪問看護・訪問介護・住宅型有料老人ホームシニアメゾンエミレーツを有する様になり、急性期から回復期、生活期まで一貫した医療と介護の提供ができるようになりました。ひとえに、皆様のご愛顧と温かいご支援の賜物と深く御礼申し上げます。

これからも地域医療・介護を支えている皆様と共に、地域医療に貢献して参りたいと思いますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



一之瀬脳神経外科病院
理事長 一之瀬 峻輔

当院の機能

急性期～生活期まで切れ目のない医療・介護を提供します

急性期

脳神経外科で治療を行う疾患は、麻痺や言語障害、高次脳機能障害など日常生活に影響を及ぼす可能性が高いものがほとんどです。特に脳卒中は時間との戦いであり、開頭手術や脳血管内治療を含めた専門性の高い治療を可能な限り早期から始めます（超急性期脳梗塞に対する治療の詳細は後述をご参照下さい）。同時に早期からのリハビリも非常に重要であり、当院では特別な安静が必要な場合を除いて、入院当日からリハビリを開始しています。

回復期

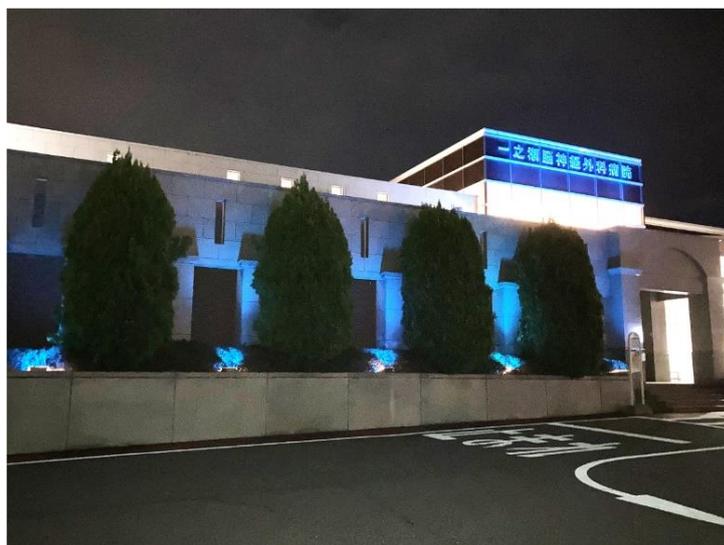
急性期の治療が終了後、症状が改善している方はご自宅へ退院されます。しかしながら、麻痺や言語障害、嚥下障害などの神経症状が見られる場合は、さらにリハビリを行う必要があります。症状が安定した後、自宅での生活に戻るために必要なリハビリを行うのが回復期リハビリテーション病棟です。当院では「おうちへ帰ろう」をテーマとして、他職種連携を図り、自宅へお帰りいただけるよう努めています。

生活期

入院中のリハビリにて回復した機能を維持することは重要です。また、実際にご自宅で過ごしてみると思うようにいかないこともあると思います。そのために、当院では併設している介護サービス事業所にて退院後の生活もサポートを行っています。

10月29日の「世界脳卒中デー」に合わせてライトアップを行いました

2006年10月に世界脳卒中機構が結成され、毎年10月29日を脳卒中予防の重要性を全世界に呼びかける「世界脳卒中デー」とすることが宣言されました。日本脳卒中協会は今年のテーマとして「Together we are#Greater Than Stroke 力を合わせて脳卒中を征圧!」とし、29日は全国の建物や建造物が世界脳卒中機構のシンボルカラー(indigo blue)にライトアップされました。当院でも啓発活動の一貫として、外観をブルーにライトアップしました。



当院では血栓溶解療法（t-PA療法）と血栓回収療法を積極的に行っています

脳卒中の診断に必要な検査を24時間体制で行い、早期からの治療を実現しています。特に脳梗塞発症早期の患者様への治療法は近年、血栓溶解療法（t-PA療法）と血栓回収療法の大きく2つに分かれ、当院ではどちらも積極的に行なっております。

脳梗塞発症4.5時間以内ならt-PAの投与、また発症24時間以内なら脳血管内血栓回収術ができる可能性があります。（※症例により施行できない場合があります）

脳梗塞で血栓回収療法を検討する基準

1. CTで出血がない
2. 発症/最終健常確認時刻から24時間以内
3. NIHSS 6点以上
4. ASPECTS(-W) 6点以上
5. 発症前mRS 2点以下

一之瀬脳神経外科病院 医療連携課
(受付時間 平日 8:30~17:30 土曜 8:30~12:30)

TEL 0263(48)3622 FAX 0263(48)2121

※時間外・休日の救急患者紹介は代表 TEL 0263 (48) 3300 へご連絡ください。

